

# 8-6

## リスクマネジメントと環境整備

環境整備をもとにその人らしさの生活を支援する

環境整備

自立支援

特別養護老人ホーム くすのきの郷

介護福祉士 佐藤 満

東京都文京区大塚4-18-1

TEL: 03-3947-2801

E-mail: @kusunokinosato.or.jp

FAX: 03-3947-6346

URL: http://www.kusunokinosato.or.jp

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要 10p

当施設は、平成4年4月に開設。利用者の意向を尊重し、多様な福祉サービスを総合的に提供し、また、たゆみない創意工夫により個人の尊厳を保持し、本人と家族及び職員との暖かい関係性を育み、維持できるよう支援している。

### 〈取り組んだ課題〉

- 転倒事故報告に基づく環境整備
- 本人の意向を尊重し、生活の支援を行う
- 行動の自由の確保と、自立支援  
—非身体的拘束、非精神的拘束—
- リハビリ部門、医療部門、その他各部門との連携による総合的な対応策の検討
- 心身のレベル低下を反映した、段階的な環境整備の見極め
- 課題解決に向けての、家族との情報共有と意識の統一化

### 〈具体的な取り組み〉

- 緊急事態発生報告書をもとに原因と課題を明確にし、課題抽出、分析、計画、実施、評価、再分析という、一連の流れに沿って、終了に至るまでを追究
- 身体面、認知面の分析
- 行動として現れる現象の分析
- PTと連携し、対応策を計画
- 本人の意向を把握し、本人の望む生活を実現、維持するための環境整備、及びリハビリの調整を行う
- 家族への情報伝達を行い、取り組みへの理解、参加を求め、意識の統一を図る（カンファレンスの実施）
- 継続した実施のもと、再分析を行い、対応策の妥当性を、本人の状態に合わせて見極める
- 具体事例 —男性 90才前後—  
脳梗塞後遺症による軽度の左片麻痺  
右眼失明 左眼弱視  
歩行器歩行から車椅子への過渡期にある  
自力移乗時にブレーキのかけ忘れによる転倒がある  
全身的なレベル低下が見られ、認知力、記憶力も低下してきている

### 〈活動の成果と評価〉

- PTと連携し、移乗がスムーズになるよう環境整備
- 視覚を通して認知しやすい工夫を行い、ブレーキの習慣化を図る（視力障害を補うため）
  - ・貼紙の工夫や見えやすい色を必要箇所に配色
  - ・ブレーキの延長と色の強調及びブレーキ位置を明確にするためのマーキング
- リハビリの強化（愛のリハビリ訓練）  
↓
- 視覚からの情報を脳で処理し、行為に移せていない認知面での低下が予想以上であることが明確となる  
↓
- 聴覚に焦点を当て、ラジカセにスイッチをつけ、ひもを引くと音声が出るシステムを開発
- 80%以上の確率でブレーキの習慣化を実現
- ケアカンファレンスを実施し、家族との情報共有を行い、取り組みへの理解、参加を依頼  
↓
- 認知面での低下がさらに進み、聴覚へのアプローチも効果が低下  
安全な自力移乗への取り組みは限界と判断し、ナースコールと連動した足元センサーへ移行し、移乗時の援助が可能な環境を整えた  
↓
- 以後転倒の予防の効果は継続できている
- 本人の意向及び生活は継続して確保されている

### 〈今後の課題〉

- 緊急事態発生報告書を通じて介護スタッフ一人一人がリスクマネジメントのプロセスを学ぶ。一つの報告書にこだわりを持ち、終了に至るまで追究する姿勢と手法を受け継ぐことが何よりの課題である